

# 2019年度に新カリキュラム始動 「進化した英米学科」に注目

小倉外事専門学校を前身とし、創立70余年の歴史を持つ北九州市立大学。現在は文系・理系の5学部1学群を擁し、公立で全国屈指の規模を誇る総合大学へと発展している。就職率も98.9%（2018年3月卒業生）と、4年連続過去最高を更新。時代のニーズに応えるため、6年ぶりにカリキュラムの見直しを行い、次年度から全学で新カリキュラムがスタート。今回の大きな変更点を中心に、魅力あるカリキュラム構築の考え方について松尾学長に尋ねてみた。

## 英語をツールに専門分野を学ぶ 新生・英米学科誕生

2019年4月に始まる新カリキュラムにおいて、もっとも大きな変更は、外国語学部英米学科。松尾太加志学長は「従来の『英語を学ぶ』カリキュラムを、『英語で専門分野を学ぶ』ものへと見直した。グローバル化の流れのなかで、世界で活躍する人材にとって英語はツール。英語の知識・スキルを持ちながら、専門的なバックグラウンドを身に付けられるカリキュラムにシフトした。英米学科の名称は広く浸透しているため、学科名はそのままに中身を大幅に変更している」と、カリキュラム変更の背景を語る。

「新カリキュラムの特色は4つ。1つ目は、高度な英語運用能力を養成するための、1・2年次における英語集中プログラムの導入。2つ目は、コアプログラム選択制度。Language and Education Program（英語学、英語教育など）、Society and Culture Program（地域研究、通訳・翻訳、国際社会、文化メディアなど）、Global Business Program（観光、国際経営など）の3つのプログラム群を用意。学生は卒業後の活躍フィールドをイメージして、コアプログラムを選択して学べるようにした。しかも、専門科目の約7割は英語で行われるため、実践的な英語力と専門知識の両方に磨きをかけることができる」。

## 高度な英語運用能力を修得し TOEIC860点以上をめざす

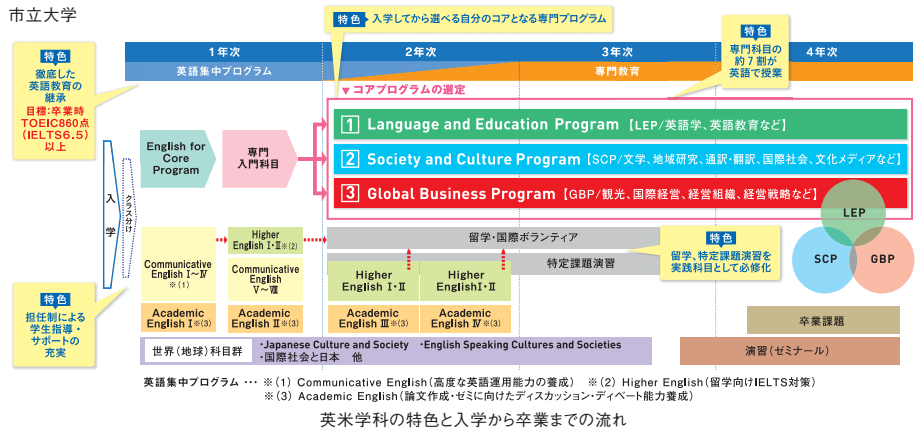
「新生・英米学科の3つ目の特色は、留学・特定課題演習など海外体験の必修化。異なる文化や考え方に触れる海外体験は短期間であっても教育効果が高いため、海外提携校を増やして留学しやすい制度を整え、学生を送り出していく。そして4つ目は、クラス担任制によるサポートの強化。学生全員が入学時のモチベーションを維持しながら能力を高められるよう、十分なサポートを行っていく」。卒業時にTOEIC860点以上という高度な英語運用能力の修得を目標に掲げ、その達成に向けた施策の数々に、「世



2019年度から全学で新カリキュラムがスタートする北九州市立大学



松尾太加志学長



界に羽ばたく人材育成」への強い意思がうかがえる。「これまで本学科を志望するのは『英語が好き』という高校生が多かったが、好きだけでなく、ぜひそれをツールとしてキャリアに活かすことまでイメージしてほしい。在学中に海外体験で異文化を知り、英語スキルや専門知識をキャリアに活かす方法が分かれば、グローバル企業での活躍や、日本にいてもグローバルな価値観をもって働く道が見えてくるはず」。

## 情報システム工学科が誕生 AIやIoTなどの情報技術に対応

国際環境工学部には情報システム工学科が誕生。電子・情報・通信分野に係わるカリキュラムに加えて、AIやIoTといった新しい情報技術を取り込んだカリキュラムを編成。複数分野を融合してシステム化できる情報技術者育成に取り組む。

## 公立大学として地域貢献を重視 学生が地域課題解決に取り組む

地域創生の取り組みとして、全国に先駆けて創設した地域創生学群もカリキュラムを再編。専門分野の実務経験を持つ特任教員を増やし、地域での実践をさらに重視。設置以来、就職率100%を継続しているのは、地域連携による実践教育の賜物だ。「公立大学として地域とのつながりは重視している。全学の地域活動の推進拠点として地域共生教育センターを設置。ここに登録した学生は地域の人と共に地域活性化につながる活動に参加し、学生と地域の人と一緒にイベントを行うなど、本学の地域貢献は高い評価をいただいている」。魅力あるカリキュラムの展開が、高い就職率や、THE世界大学ランキング日本版2018「教育充実度」において公立大学3位の実績につながっているとさえうたう。